

挑戦なくして前進なし

会長 近藤 英治

新年あけましておめでとうございます。

早いもので熊本大学に着任し7ヶ月が過ぎました。この間、多くの先生方の温かいご支援・ご協力により、県内の医療提供体制を維持することができたことを心より御礼申し上げます。



2021年を振り返ると、2020年に引き続き新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。東京五輪の会期中からデルタ株の「第5波」が猛威をふるい、その後、感染状況は、ワクチン接種の効果により落ち着きを取り戻したものの、現在、オミクロン株による「第6波」の襲来が目前に迫っています。しかし、近年の医学の進歩は目覚ましく、mRNA ワクチン接種の普及に続いて経口抗ウイルス薬が登場したことにより、そう遠くない将来、新型コロナウイルスもインフルエンザ並みの扱いになると思われます。一方、世界各地で相次ぎ起こっている気候変動に伴う森林火災や洪水などの災害は、容易に解決できそうにありません。今や100年に一度の出来事が頻繁に起こる時代です。2021年のノーベル物理学賞は気候変動の研究が評価され、真鍋淑郎博士が受賞しました。現在、気候変動問題は地球規模の課題となっています。2021年は宇宙旅行元年でもありましたが、地球を脱出し、宇宙で生活することも夢物語ではなくなりそうです。我々産婦人科医が本格的に宇宙医学に乗り出す日もそう遠くないでしょう。

このように変化が速く先行き不透明な時代ですが、教室がなすべきことはいつの時代も「北極星」のように変わりません。それは安心・安全な医療の提供と人材の育成です。そこで、県内の周産期医療の質的向上を目指し、学会と医会の共催で熊本 M & M (Maternal death and Morbidity) カンファレンスを創設しました。また、県内に安心・安全な鏡視下手術を普及させるため熊本産科婦人科内視鏡研究会を設立しました。大学における子宮悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術の件数は順調に増加しており、3月からはロボット支援下手術も始まります。屋根瓦方式で多くの人材を育成したいと考えております。春になると大学で修練を積み重ね成長した専攻医が関係病院に赴任します。若者の活躍なくして熊本の未来はありません。専攻医が3年間で周産期、腫瘍、生殖内分泌をバランスよく学べるようローテーションを計画していますので、暖かく厳しいご指導をよろしくお願いいたします。また、学生や研修医が思わず産婦人科を選びたいよう教育・リクルートにも力を入れております。見学や交流会など随時受け付けておりますので、前途有望な若者を是非ご紹介いただきませうようお願いいたします。

スポーツ好きの私としては、2021年は松山英樹のマスターズ優勝や大谷翔平のメジャーリーグでの大活躍に心躍らせた1年でもありました。揺るぎない信念を持ち、自ら変化することを恐れず挑戦し続ける者に女神は微笑むのだと改めて実感しました。情報が溢れ混沌とした時代ですが、若い医師には、固定観念や既成概念に囚われず、自分の可能性に挑戦し、未来を切り拓いて欲しいと思います。

2022年の干支である壬寅は「陽気を孕み、春の胎動を助く」という意味を持ち、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく誕生する一年になると言われております。若い医師が大きな芽吹きとなるよう邁進いたしますので、引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(2022年元旦)